



みつぎ便り

第204号 9月号 令和5年9月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



ナツアカネ

日本の代表的童謡に「夕焼け小焼けの赤とんぼ…」という赤とんぼがある。この歌に出てくる赤とんぼには、色々な種類があるが、ナツアカネ、アキアカネなどアカネ属に含まれるトンボが代表種である。

ナツアカネは、トンボ科アカネ属に分類され、体長三十八^ミ程度で成虫は六月から十一月に水田などでみられ、日本全国に分付している。

外観上、アキアカネに非常によく似ているが、胸のところにある三本

の黒い線のうち、真ん中の線が途中で

でスバツと切れているのがナツアカ

ネの特徴です。未熟期には体色は黄

褐色をしているが、その年の気候や

個体差によって違いがあるが、雄に

ついては九月頃に入ると体中が真っ

赤に染まり、正に赤とんぼとなりま

すが、雌には腹部の背面のみが赤く

なるタイプが多い。

真っ赤に染まったナツアカネが涼

しい秋空に映えて飛び交う季節が待

ち遠しい今日このごろです。(昭)

ミズヒキソウ

ミズヒキソウはお飾りや熨斗のしなどに使う水引から、この名が付いたとのこと。細く長い茎から直接小さく可憐な花が咲き、清楚な姿から秋の茶花としても用いられます。一般的には赤が多いようですが、見次公園では白い花が咲きます。

種子が動物や人に付いて運ばれるという植物を付着散布ちやくさんぷと呼びます。

ミズヒキソウもこのタイプです。花が終わると、長く弓なりの茎にたくさん付く種子は、確かにくっつきや



すそうな形状で、こぼれ種でも自然に増える強さがあります。

ダーウィンも種の起源で、「生き残る種とは、最も知的なものではなく、最も強いものでもない。自らが置かれた移り変わる環境に、最もよく適応し順応できたものである。」と言った通り、可憐ながら付着散布するミズヒキソウからも学ぶこともありそうです。

正月飾りの水引でも、花を咲かせたミズヒキソウのようなアレンジもしてみたいと思います。(朋)